

第3章 啓発・情報提供、学習・研修

第1章、第2章で紹介してきたように、まちセンが設立されてから20年間で、多くの都市計画、建築、まちづくりなどに関連する制度が新設、改正されています。

例えば、平成23年4月に施行された「地域景観づくり協議会」制度では、定められた地区内で建築行為をする建築主等は協議会との意見交換が義務付けられます。このことは、地域と建築主等が地域の景観づくりを一緒に考えるきっかけを作ることができます。

また、京町家の賃貸借において、従来型の賃貸借契約は、「正当事由」がある場合でなければ、賃貸人(貸主)から契約の更新拒絶や解約の申し入れができないとされてきたため、京町家の所有者が「解約したくてもできない」との不安から、空き家となっても貸し出すことを躊躇する事例が見られました。しかし、平成12年3月に施行された定期借家制度では、契約で定めた期間が満了すると確定的に賃貸借を終了することができるため、そのような不安はなくなりました。

このように、まちづくりのルール作りや京町家の保全・再生の取組に関して新しくできる制度等を活用することで、今までの課題が解決したり、改善する可能性が広がります。つまり、地域住民や京町家所有者が様々な情報を得て、学習することは、まちづくり活動や京町家の保全・活用などの選択肢の幅を広げることにつながります。

そのため、まちセンでは、地域団体、職能団体、市民活動団体、専門家、学識者、法律家、民間事業者などとのネットワークを活用し、新しい制度を実際に活用し、取組を進めている先進的な地域や京町家の再生事例等を積極的に紹介しています。

啓発・情報提供、学習・研修の取組

まちセンでは広く市民、企業、行政、専門家等を対象に景観・まちづくりに関する情報の共有や、相互に学び合う場をつくり、共に知識や技術の向上を図るため、各種セミナーやシンポジウムを行うとともに各種メディアを利用し情報発信しています。

主な取組は以下の通りです。

① 「景観・まちづくりシンポジウム(延べ参加者約5,800名(平成29年10月末現在))」では、地域まちづくり活動の活性化や京町家の保全・再生を目指し、様々な課題とその解決策を見出すため、産・官・学・民の協働による議論の場を提供しています。

② 「景観・まちづくり大学(延べ655回開催(平成29年10月末現在))」では、京都の景観・まちづくりについて多様な視点から学び、考え、実践へとつないでいくことのできる人材の育成を目指し、様々なテーマでセミナーを開催しています。

③ 「京都・学生まちづくりコンクール(平成10年度)」は、京都市自治100周年事業として実施し、大学のゼミ等を基礎とするグループを対象に、京都市内の都心部(西陣、富有、明倫の3学区)と南部(高度集積地区)のモデル地区におけるまちづくりの具体的な提案を求めるもので、4地区で計20グループ(141人)の応募が寄せられ、コンクール終了後も、地域では出来るところから学生の提案を検討していこうといった動きや、新たな提案を学生に求める動きが見られるなど新しいまちづくり活動の端緒となりました(ニュースレター4号、5号、6号)。

④ 「景観・まちづくりコンクール(平成11年、15年度)」を実施し、優れた事例を表彰するとともに、広く、市民と共に景観・まちづくりについて考え、景観の保全・創造と質の高い住環境の形成など京都の魅力や個性を高めていくことを目指しました(ニュースレター9号、11号、25号)。

⑤ 「京都のまちづくり史調査研究委員会(平成13年度)」は京都のコミュニティやまちの成り立ちについて、調査研究するために、都市史、建築史などの学識者と協働し、歴史の節目で今日の地域を特徴づけてきた「まちづくりの歴史」をどのような主体にとっても分りやすく、身近な情報として、また、京都のまちの歴史や成り立ちを客観的かつ正確に理解できるものとして書籍「京・まちづくり史」としてまとめ、出版しました(ニュースレター24号)。

3-1 景観・まちづくりシンポジウム

⑥ 「まちなみ住宅設計コンペ(応募110作品)(平成13年度)」を都市居住推進研究会と共催で実施し、地域共生の住宅(群)開発のあり方を考えることを目的に、コンセプト構築の段階から地域住民が参画し、地域の文脈を理解した上で設計提案が行われました。結果、地域にとって求められる住宅であること、事業者にとって採算性を持つこと、購入者が住みやすいことなどを評価し、実際に建売住宅群が建設され、新しい住宅開発における事業形態の可能性を示すことができました(ニュースレター15号、16号)。

⑦ 「京都まちなかこだわり住宅設計コンペ(平成17年度)」に都市居住推進研究会と共催で実施し、新築住宅に関しては、経済性や効率性が優勢され、地域性の感じられないものが多いという問題意識から、京都の文脈に沿った「京都らしい住宅づくり」と「地産地消による地域産業連関の再構築」モデルの検討を行いました。結果、町並みと調和した新しい基準となる住宅が選定され、事業者によって、実際に建設されました(ニュースレター35号、37号、38号、39号、46号)。

⑧ 「まちづくり交流博(平成13、15、17年度)」では、平成13年度から、京都で活動するまちづくり団体による情報発信や相互交流を目指し、第1回目(平成14年2月開催)は67団体、第2回目(平成16年2～3月開催)は79団体が、それぞれの活動をパネル展示により発信し、様々な交流プログラムにより、お互いに情報交換や討論を行いました。3回目は内容を絞り込み「地域コミュニティの新しいかたち」というテーマで近年の社会やコミュニティの変化を踏まえ、主に京都のまちなかにおけるまちづくり活動の中から、今後のコミュニティのあり方に示唆を与えるような取組を取り上げました(ニュースレター18号、21号、26号、34号、35号)。

⑨ 「MISO(まちセン・インフォメーション・サテライトオフィス)」では、平成20年9月から約3ヶ月間、上京区の元西陣小学校にサテライトオフィスを開

設して調査、イベント、セミナーなど(第Ⅲ期京町家まちづくり調査、西陣まちかどアルバム、京都で「町家」なわけなど)を実施し、総勢 800人以上の来場者がありました。また、平成27年11月7日から約1ヵ月間、同じ場所でサテライトオフィスを開設し、「上京の歴史と魅力あるまちを守り、育むプロジェクト」と題し、京町家・空き家の相談会やシンポジウム、地域まちづくりワークショップなどを開催しました(ニュースレター45号、74号)。

⑩ 「近代まちづくり史研究会」では、平成25年度から、明治以降から戦前までの期間の市街地(郊外住宅地)形成の変遷とそこに供給された建築様式・用途との関連を把握し、近代住宅としての「町家」を再定義するとともに、まちづくりの解釈を加えて取りまとめることを目的として研究を行っています。

⑪ ニュースレター「京まち工房」(81号、平成29年12月現在)を平成9年12月から年4回(6月、9月、12月、3月)、各4500部発行し、景観・まちづくりに関する各種情報及び地域、関係団体等の活動状況、まちセンの事業等を広報しています。

【参考文献】

- 1) ニュースレター 京まち工房 第4号 平成10年9月
- 2) ニュースレター 京まち工房 第5号 平成10年12月
- 3) ニュースレター 京まち工房 第6号 平成11年3月
- 4) ニュースレター 京まち工房 第9号 平成11年12月
- 5) ニュースレター 京まち工房 第11号 平成12年6月
- 6) ニュースレター 京まち工房 第15号 平成13年6月
- 7) ニュースレター 京まち工房 第16号 平成13年9月
- 8) ニュースレター 京まち工房 第18号 平成14年3月
- 9) ニュースレター 京まち工房 第21号 平成14年12月
- 10) ニュースレター 京まち工房 第24号 平成15年9月
- 11) ニュースレター 京まち工房 第25号 平成15年12月
- 12) ニュースレター 京まち工房 第26号 平成16年3月
- 13) ニュースレター 京まち工房 第34号 平成18年3月
- 14) ニュースレター 京まち工房 第35号 平成18年6月
- 15) ニュースレター 京まち工房 第36号 平成18年9月
- 16) ニュースレター 京まち工房 第37号 平成18年12月
- 17) ニュースレター 京まち工房 第38号 平成19年3月
- 18) ニュースレター 京まち工房 第39号 平成19年6月
- 19) ニュースレター 京まち工房 第45号 平成20年12月
- 20) ニュースレター 京まち工房 第46号 平成21年3月
- 21) ニュースレター 京まち工房 第74号 平成28年3月



図3-1-1 景観・まちづくりシンポジウムの様子

平成9年度に、「京町家の保全・再生を考える～保全・再生実践から京町家の未来を探る～」と題し、はじめて「景観・まちづくりシンポジウム」を開催しました。以降毎年度、地域まちづくり活動の活性化や京町家の保全・再生を目指し、様々な課題とその解決策を見出すため、産・官・学・民の協働による議論の場を提供しています。

平成14年に日本建築学会や京都経済同友会から、日本人共通の財産である京都を守るためには、国を挙げた取組が必要であるとの提言が出されたことをきっかけに、京都市は、平成15年5月に、「京都創生懇談会」を設置し、同年6月に懇話会から「国家戦略としての京都創生の提言」を受け、平成16年10月には国に対する提案を「歴史都市・京都創生策(案)」としてまとめました。こうした動きと連動する形で、平成17年6月には、景観・文化・観光などの分野で京都創生に積極的に取り組む京都の団体、企業、市民などが集い、地元京都から京都創生の取組を進めていくことを目指して「京都創生推進フォーラム」が設立されました。

まちセンにおいては、この京都創生の取組を全国に発信し、京町家の保全・再生など京都らしい景

観・まちづくりの取組への理解と協力の輪を全国へ広げるため、平成17年10月30日に、『京都創生への挑戦』～都市文化の源泉『京町家』から描く、百年後の京都～』と題して、はじめて東京においてシンポジウムを開催しました。以降、京都市、京都創生推進フォーラム等が主催する「京あるきin東京」において、京町家

まちづくりファンドのPRを実施し、シンポジウムを継続的に共催しています(表3-1-1内の※は京あるきin東京事業)。

また、平成20年9月15日には、『京町家の危機再生への挑戦』～ニューヨークプロジェクトに向けて～』と題し、ニューヨークではじめて開催する京町家の保全・再生に関するシンポジウムに向けて、アピールするための準備を公開で議論を重ねました(2-5京町家再生プロジェクト参照)。ニューヨークでの取組の結果、平成22年、24年、28年にWMFの支援を受けるプロジェクトが実施されました。

「景観・まちづくり大学(3-2景観・まちづくり大学参照)」や「京まち工房(3-4-(1)ア ニュースレター「京まち工房」参照)」が日常的な情報発信、啓発活動であるとするれば、「景観・まちづくりシンポジウム」は、先に挙げた例のように、その時々で変わる社会・経済状況に合わせたトピックを取り上げ、多くの主体(市民、企業、専門家、学識者など)と議論を公ですることによって、将来を見据えて取り組むべき課題の発見、整理、検討を行うとともに、市民に広く周知するため、メディアなどに取り上げられる話題性も重要視しています。

表3-1-1 景観・まちづくりシンポジウム開催記録

開催日	開催場所	タイトル	内容・登壇者など(敬称略)
平成9年12月17日	京都山一ホール	「京町家の保全・再生を考える」	【基調講演】「京町家の歴史」高橋康夫(京都大学教授) 【パネルディスカッション】宗田好史(京都府立大学助教授)・小島富佐江(京町家再生研究会)・東樋口護(木の文化研究会)・栗山裕子(古材バンクの会)・衛藤照夫(京都府建築士会)・堀榮二(京都府建築工業協働組合)・絹川雅則(京都府建築業協会)・黒川節人(㈱くろちく)
平成10年12月18日	ウイングス京都	「京都・学生まちづくりコンクール表彰・発表会」	【司会】宗田好史(京都府立大学助教授)【パネリスト】吉川哲雄・文字英夫(西陣)・森隆之助・中島浩(富有)・秋山和二郎・井上成哉(明倫)
平成11年3月23日	元龍池小学校講堂	「個人の思いを大切にしたい町家の再生」～逆方向の思考・アメリカの環境教育に学ぶ～	【司会】宗田好史(京都府立大学助教授)【パネリスト】ドリーン・ネルソン(カルフォルニア州立工科大学)・小島富佐江(京町家住人・京町家再生研究会)
平成11年11月6日	元龍池小学校講堂	「歴史的町並みの活用とコミュニティ創生」	【基調講演】「居住文化財としての歴史的町並みとその持続的開発～京都の場合」三村浩史(関西福祉大学教授・京都大学名誉教授) 【パネルディスカッション】「海外事情報告:歴史的町並みの活用とコミュニティ再生」【司会】宗田好史(京都府立大学助教授)【パネリスト】タイ、シンガポール、インドネシア、フィリピン、マレーシア、ベトナム、カンボジアからの招聘者
平成11年11月7日	元龍池小学校講堂	「歴史的町並みの活用とコミュニティ創生」	【パネルディスカッション】「歴史的町並みの評価と保存運動と保存運動ー市民、専門家、行政」【司会】リム ボン(立命館大学助教授)【パネリスト】小針剛(ネットワーク西陣)・小島富佐江(京町家再生研究会)・増井正哉(奈良女子大学助教授) 【パネルディスカッション】「歴史的建造物の再生活動ー伝統技能と職人の問題ー」【司会】布野修司(京都大学助教授)【パネリスト】梶山秀一郎(京町家作事組)・木下龍一郎(アトリエRYO)・東樋口護(京都大学助教授・古材バンクの会) 【パネルディスカッション】「～21世紀への展望～」【司会】三村浩史(関西福祉大学教授・京都大学名誉教授)【パネリスト】陣内秀信(法政大学教授)
平成12年4月8日	ウイングス京都	「京都の景観・まちづくりを考える」	【司会】東樋口護(京都大学助教授)【パネリスト】新井一樹(京都商工会議所青年部顧問)・乾亨(立命館大学教授)・宇戸純子(京都芸術短期大学講師)・高田光雄(京都大学大学院助教授)
平成12年11月23日	ウイングス京都	「都市居住文化を考える」～21世紀のまちづくりフロンティア・京都の秘密～	【司会】リム ボン(立命館大学助教授)【パネリスト】小島富佐江(京町家再生研究会)・小針剛(ネットワーク西陣・写真家)・西嶋直和(本能まちづくり委員会)・大野恭介(京都リサーチパーク(株)企画開発部長)
平成13年9月1日	池坊学園こころホール	「京町家を支える環境づくりに向けて」	【司会】三村浩史(関西福祉大学教授・京都大学名誉教授)【パネリスト】大谷孝彦(京町家再生研究会代表幹事)・河邊聡(社)京都府建築士会副会長)・木村忠紀(京都府建築工業協働組合理事)・小針剛(町家倶楽部事務局)・吉田光一(京都府宅地建物取引業協会)
平成13年10月9日	元龍池小学校講堂	「持続可能なまちづくりを考える」～地域を結ぶ、スポーツコミュニティ～	【講師】平尾誠二(特定非営利活動団体スポーツ・コミュニティ・アンド・インテリジェンス機構(SCIX)代表、神戸製鋼ラグビー部ゼネラルマネージャー)【司会】宗田好史(京都府立大学助教授)
平成13年12月15日	元龍池小学校講堂	「京都の都市景観の再生」～学会提言案を考える市民ワークショップ～	日本建築学会・市民ワークショップ
平成14年6月26日	元龍池小学校講堂	「まちづくりと京町家保存の理論」～都市計画から見たアプローチ～	京都市まちなみ審議会委員による講演、パネルディスカッション
平成14年9月7日	元龍池小学校講堂	「これからの都市景観の創造に向けて」	【基調講演】「自然の建築と手づくり」藤森照信(東京大学教授) 【基調講演】「市民参加型セルフビルドとエコロジカルな建築」長谷川敬(建築家) 【対談】「手づくり建築と自然素材の意義を問う」藤森照信(東京大学教授)・長谷川敬(建築家)【司会】内藤正明(京都大学教授)・羽田野泰昭(建築家)
平成14年12月1日	ぱ・る・るプラザ京都会議室	「京町家で快適に暮らす工夫」	【基調講演】「京町家の快適環境について」東樋口護(鳥取環境大学教授) 【パネルディスカッション】【司会】東樋口護(鳥取環境大学教授)【パネリスト】岩前篤(積水ハウス(株)総合住宅研究所)・長町憲一(大阪ガス(株))・堀栄二(京都府建築工業協同組合総代)・山田公子(京町家友の会事務局、京町家居住者)
平成15年9月20日	ひと・まち交流館	「わたしたちがつくるまち」～参加から一歩前へ～	【基調講演】「実例を通してみた新しい『参加』～意味のデザイン～」延藤安弘(NPO法人まちの縁側育くみ隊代表理事) 【基調講演】「現場から見えてきた新しい公共性」林泰義(NPO法人玉川まちづくりハウス運営委員) 【パネルディスカッション】【司会】谷口知弘(立命館大学助教授)【パネリスト】延藤安弘(NPO法人まちの縁側育くみ隊代表理事)・林泰義(NPO法人玉川まちづくりハウス運営委員)・吉田鐵也(京都大学大学院講師) 【意見交換会】「セカンドステージのまちづくり～次なる時代へのキーワードを探す～」【司会】延藤安弘【コメンテーター】林泰義

開催日	開催場所	タイトル	内容・登壇者など(敬称略)
平成15年12月14日	ひと・まち交流館	「これからの都市景観の創造に向けて」	【パネルディスカッション】【司会】長谷川和子(KBS京都アナウンサー)【パネリスト】三村浩史(副審査委員長)・河邊聡(副審査委員長)・加藤修三(第1回コンクール大賞受賞西大路駅周辺のまちづくり地域代表)・木谷俊夫(第1回コンクール大賞受賞西大路駅周辺のまちづくり企業代表)・西嶋直和(第2回コンクール京都市長賞受賞歩いて暮らせるまちづくり推進会議)
平成16年10月16日	ひと・まち交流館	「歴史から学ぶまちのルールづくり」～現代に生きる町式目～	【基調講演】谷直樹(大阪市立大学大学院教授、大阪市立住まいのミュージアム館長)【パネルディスカッション】【司会】リム ボン(立命館大学教授)
平成17年3月13日	ひと・まち交流館	「京都の景観とまちづくり」～町家が活かされる21世紀京のまち風景～	【基調講演】西島安則(京都市産業技術研究所所長、元京都大学総長、前まちセン理事長)【パネルディスカッション】【司会】三村浩史(京都大学名誉教授)
平成17年9月10日	ひと・まち交流館	「メディアが捉える京都像とその現実」～市民の住まい・営みから百年後の京都の景観を描く～	【基調報告】「メディアが捉えた京都像」田中淳(京都チャンネルプロデューサー)・本橋一裕(月刊「京都CF」編集長)【司会】長谷川和子(KBS京都プロデューサー) 【ビデオ上映】「京町家を受け継ぐ暮らしの風景」 【パネルディスカッション】「住まい・営みから百年後の京都の景観を描く～外から見た京都と、内から見た京都～」【司会】大谷孝彦(武庫川女子大学教授)【パネリスト】高田光雄(京都大学大学院教授)・吉田孝次郎(無名舎主宰)・大島仁(京都市)・田中淳・元橋一裕
平成17年10月30日	東商ホール(東京都千代田区)	「京都創生への挑戦」～都市文化の源泉「京町家」から描く、百年後の京都～	【口上】「国家戦略としての京都創生」茂山千三郎(狂言師) 【基調講演】「京都・暮らしの華やき」市田ひろみ(服飾評論家) 【京都創生の取組紹介、ビデオ上映】「京町家を受け継ぐ暮らしの風景」 【パネルディスカッション】「京町家から描く百年後の京都のすがた」【司会】三村浩史(関西福祉大学教授、京都大学名誉教授)【パネリスト】茂山千三郎(狂言師)・市田ひろみ(服飾研究者)・中西進(京都市立芸術大学学長・まちセン理事長)・毛利信二(京都市副市長)
平成18年3月5日	ひと・まち交流館	「地域が動く、地域が変わる」	【基調講演】「地域に交流を生み出す仕掛けとは～谷根千の冒険～」森まゆみ(作家、東京国際大学教授、「谷根千」編集人) 【パネルディスカッション】「京都まちなか・新しいまちづくりの展開」【司会】乾亨(立命館大学教授)【コメンテーター】森まゆみ(作家)【パネリスト】西嶋直和(本能まちづくり委員会)・中村伸之(城巽五彩の会副会長)・岩淵恵子(高倉小学校校長)・中村麻子(本能まちづくり委員会)・田中志敬(同志社大学大学院生)
平成18年9月9日	ひと・まち交流館	「人と人のつながりが、まちを創る」	【基調報告】「『人に宿るまちへの心』～これからの京都の展望～」水野歌夕(写真家、水野克比古町家写真館館長)・室雅博(社)奈良まちづくりセンター理事長)・三村浩史(関西福祉大学教授、(財)まちセン理事) 【記念シンポジウム】「人と人とのつながりが、まちを創る」～一軒一軒の思いをまちの景観・まちづくりに～【特別ゲスト】ジェフ・バーグランド(帝塚山学院大学大学院教授)
平成19年2月18日	ひと・まち交流館	「通りが舞台人が行き交う京のまち」	【祇園囃子演奏】(財)祇園祭船鉾保存会 【基調講演】「『来るべき京の姿』～かわらないもの、かわりゆくもの～」吉田孝次郎(無名舎主宰、(財)祇園祭山鉾連合会副理事長) 【分科会】Ⅰ京町家を受け渡す家族のかたち、地域のかたち(進行:宗田好史(京都府立大学助教授))Ⅱ次代を創る京都まちなか住宅(進行:高田光雄(京都大学大学院教授))Ⅲ地域の祭りを支える住民交流(進行:増井正哉(奈良女子大学教授))
平成19年9月16日	ひと・まち交流館	「居心地の良いまち」～歴史と自然が紡ぎだす京都の景観～	【基調講演】「歴史と自然が紡ぎだす景観づくり」中村良夫(東京工大名誉教授、元京都大学教授、日本風景街道戦略会議副委員長) 【パネルディスカッション】「京都らしい景観を育む居心地の良いまち」【司会】門内輝行(京都大学大学院教授)【パネリスト】小西宏之(修徳まちづくり委員会委員長)・岡見弘道(歩いて暮らせるまちづくり推進会議代表)・石本正宜(納屋町商店街地区まちづくり委員長)・田中真澄(岩屋山志明院住職)・深尾甚一郎(近江八幡市都市整備課風景づくりグループ課長補佐)
平成20年2月24日	ひと・まち交流館	「個から始まるまち育て」～まちの縁側で卵がかえる～	【基調講演】幻燈会「縁(えん)・エコ・縁(ふち)をつなぐまちづくり」延藤安弘(NPO法人まちの縁側育くみ隊代表理事、愛知産業大学大学院教授) 【現場からの報告】「人と人の縁が輪が元気を育む」丹羽園子(クニハウス・ハルハウス代表、佛教学教授) 【縁側談義】「京都のまちの縁側の仕掛け人たち」【亭主】乾亨(立命館大学教授)【客人】水無瀬文子(とねりこの家)・横山映子(かたりは朋)・振本ありさ(アリスハウスミュージアム)・絹川雅則(まちセン評議員)
平成20年9月15日	ひと・まち交流館	「京町家の危機再生への挑戦」～ニューヨークプロジェクトに向けて～	【ディスカッション】「京町家の危機再生への挑戦」【司会】リム ボン(まちセン評議員、立命館大学教授)【パネリスト】大久保浩(財)日本漢字能力検定協会副理事、(株)日本統計事務センター代表取締役)大谷孝彦(京町家まちづくりファンド委員会委員長、NPO法人京町家再生研究会理事長、武庫川女子大学教授)小島富佐江(NPO法人京町家再生研究会事務局)三村浩史(まちセン理事長、京都大学名誉教授)山崎一樹(京都副市長)寺田敏紀(京都市都市計画局景観創生監)
平成21年3月4日	日本橋公会堂(東京都中央区)	「伝統文化を活かす暮らし」～京町家と日本橋～	建築物が持つ空間の文化、暮らしの文化、まちづくりの文化について、「京町家」と「日本橋」を題材に講演し、伝統文化の素晴らしさを発信

開催日	開催場所	タイトル	内容・登壇者など(敬称略)
平成21年7月20日	ひと・まち交流館	「明日に活かす京町家」～京町家まちづくり調査中間報告会～	平成20年度に実施した京町家まちづくり調査の状況の報告と京町家保全・再生・活用についての意見交換を行う
平成22年3月7日	ひと・まち交流館	「まちかどアルバム」～よみがえれ「まち」の記憶! 写真が語る、写真で語ろう～	地域で体験した出来事や「まちの記憶」を集め、それらを共有することで、地域への愛着を生み、まちと人との関わりを豊かにするきっかけづくりのためのシンポジウム 【パネル展示】シンポジウムに参加された地域のまちかどアルバムのパネルを展示(3月11日～24日)
平成22年10月2日	ひと・まち交流館	「京町家まちづくり調査報告会 & 意見交換会」	第3回京町家まちづくり調査の報告と京町家の保全・再生・活用についての意見交換
平成23年2月12日	京都造形芸術大学 外苑キャンパス	※「京都に暮らすコト、町家に住まうコト」	【セミナー】「京都に暮らすコト、町家に住まうコト」小針剛(町家倶楽部ネットワーク事務局長、フリーカメラマン)
平成23年2月20日	ひと・まち交流館	「地域情報の発信」	【パネルディスカッション】【司会】谷口知弘氏(同志社大学教授)【パネリスト】菅谷幸弘氏(六原学区自治連合会事務局長)・杉井正治氏(NPO法人京都・深草ふれあい隊竹と緑理事長)・松田規久子氏(京都新聞社地域報道部長代理)
平成23年10月1日	ひと・まち交流館	「京町まちなか街区の防災を考える」	地域住民、事業者や行政関係者、研究者等とともに京都における災害研究や地域・商業者の防災取組状況の一端を知る機会として開催し、講演や議論を通じて、防災における京都特有の課題を考え、それぞれの立場で、更なる防災意識の向上、活動の契機とした。
平成24年3月10日	ひと・まち交流館	「まちの絆が命をまもる」～防災からはじめるまちづくり～	【パネルディスカッション】地域と専門家、公的組織が一体となって行っている防災支援や取組事例を紹介し、有事の際に市民一人一人が共助の関係や支え合う力を発揮できるまちづくりの実現に向けたパネルディスカッションを実施 【分科会】地縁団体や参加者とパネラー間で質疑応答形式の分科会を行った。
平成25年2月13日	野村カフレスラザ 日本橋	※「技の継承ー京町家の再生を通してー」(WMF連携事業)	【パネルディスカッション】【司会】小島富佐江(NPO法人京町家再生研究会理事長)【パネリスト】デービッド・アトキンソン(㈱小西美術工芸社長兼社長)・大西清右衛門(釜師大西家十六代当主)
平成25年2月24日	ひと・まち交流館	私たちが担う景観・まちづくりのこれから～コミュニティを育む景観・まちづくりのススメ～	【基調講演】門内輝行(京都大学大学院教授)「コミュニティを育む景観・まちづくりのススメ」門内輝行教授(京都大学大学院教授) 【分科会】 分科会A:「地域文化を守り伝える景観の創造」事例紹介:修徳学区、先斗町 分科会B:「空き家から考える地域の未来と景観・まちづくり」事例紹介:六原学区、きたまち(奈良市)、尾道市 分科会C:「地域の運営を拓くコミュニティと景観のこれから」事例紹介:西竹の里タウンハウス、土居廓中(高知県安芸市)
平成26年2月7日	野村カフレスラザ 日本橋	※「智恵の継承ー京町家の再生を通してー」(WMF連携事業)	【パネルディスカッション】【司会】小島富佐江(NPO法人京町家再生研究会理事長)【パネリスト】西村吉右衛門(ちおん舎舎主)・アラード・チャールズ・ジュニア(ウイントン・キックル・アジア《香港》代表取締役社長)
平成26年2月8日	東海東京証券㈱ 東京本部	※「京町家に息づく心豊かな暮らし」	【セミナー】「京町家に息づく心豊かな暮らし」秦めぐみ(京都秦家主宰)
平成26年2月23日	ひと・まち交流館	「これからの地域まちづくりの担い手」	【パネルディスカッション】【司会】吉田友彦(立命館大学教授) 事例紹介:井上成哉(明倫まちづくり委員会前委員長)・林正則(紫野学区社会福祉協議会会長)・大西賢市(梅津自治会連合会会長) 【分科会】 I「コミュニティ形成に貢献する景観まちづくりの可能性」【司会】谷亮治(同志社大学講師)事例紹介:神戸啓(先斗町まちづくり協議会副会長兼事務局長)・西田教子(修徳まちづくり委員会常任委員) II「創造的な活動空間によるにぎわい創造」【司会】阿部大輔(龍谷大学准教授)事例紹介:田中裕也(KRP町家スタジオ Tunagum.)・石川秀和(㈱H.L.C.)・吉田瑞希(京都造形芸術大学・まか通)
平成26年12月7日	ひと・まち交流館	「地域をひらくー新しい人を受け入れる形」	【話題提供】新川達郎(同志社大学大学院教授)事例紹介:成逸学区、待賢学区、六原学区 【パネルディスカッション】「京都市の地域コミュニティ活性化の取組紹介」 【司会】新川達郎【パネリスト】牧本晴男(成逸自主防災会会長)・左近允則(待賢住民福祉連合協議会会長)・内藤敬哉(待賢まちづくり委員会委員)・菅谷幸弘(六原自治連合会事務局長、六原まちづくり委員会委員長)
平成27年2月20日	野村カフレスラザ 日本橋	※京町家・東京シンポジウム「景色の継承ー京町家の再生を通してー」(ファンド連携事業)	【司会】小島富佐江(NPO法人京町家再生研究会理事長)【パネリスト】デービッド・アトキンソン(㈱小西美術工芸社長兼社長)・小川勝章(造園「植治」次期12代)
平成27年11月7日	元西陣小学校 体育館	「創造のまち・上京」	【パネルディスカッション】【司会】宗田好史(京都府立大学大学院教授) 飯高克昌(NPO法人アニュアルギャラリー代表理事)・水野秀比古(㈱水野克比古写真事務所専務取締役)・水野成容(京都市リサーチパーク㈱常務取締役)・細尾真生(㈱細尾代表取締役社長)
平成28年2月17日	野村カフレスラザ 日本橋	※京町家東京シンポジウム「あなたと生きる京町家」(ファンド連携事業)	【パネルディスカッション】杉野善彦(㈱井筒ハツ橋本舗社長)・大場修(京都府立大学大学院教授)・細尾真生(㈱細尾社長)・山中琢人(㈱フージャースコーポレーション京都支店支店長)・若村亮(㈱らくたび代表取締役)

開催日	開催場所	タイトル	内容・登壇者など(敬称略)
平成29年2月24日	大和ハウス株式会社東京本社	※「祇園祭と京町家」(ファンド連携事業)	吉田 孝次郎(無名舎主宰、(公財)祇園祭山鉾連合会前理事長)・増井 正哉(京都大学大学院教授)
平成29年2月26日	移住・交流情報 ガーデン	※京あるきin東京2017メインイベント「京町家の心豊かな暮らし講演会」(京町家等継承ネット連携事業)	【パネルディスカッション】秦めぐみ(京都秦家主宰)・島井佐枝(KYOTOGRAPHIE京都国際写真祭サテライトイベントKG+実行委員)・吉田光一(京町家居住支援者会議事務局長、㈱フラットエージェンシー会長)
平成30年2月23日	実践女子大学 渋谷キャンパス 創立120周年記念館 (東京都渋谷区)	※京あるきin東京2018京町家トーク「京都のまちなみと暮らしの文化」	【講演】「京都のまちなみと暮らしの文化」畑正高(香老舗 松栄堂社長) 【対談】畑正高(香老舗 松栄堂社長) 矢ヶ崎善太郎(京都工芸繊維大学准教授)

3-2 景観・まちづくり大学

平成15年度に、まちセンは現在の菊浜小学校跡地(河原町五条下る東側)に建設された「ひと・まち交流館京都」に事務所を移し、施設管理業務を担うこととなりました。その施設管理業務の一環として、従前より開催し



図3-2-1 景観・まちづくり大学のパンフレット(平成29年度冬季)

ていた「地域まちづくりセミナー」、「京町家再生セミナー」を充実させるとともに、まちづくりについて多様な角度から学び、考え、実践へとつなげていくことのできる常設のセミナーを新設し、「景観・まちづくり大学」として事業を開始しました。

「景観・まちづくり大学」は当初、「地域まちづくりセミナー(基礎編/ステップアップ編)」、「京町家再生セミナー(京町家まちづくりセミナー)」、「京のまちづくり史セミナー」、「京都情報発信セミナー(情報発信セミナー)」、「まちづくり専門家(交流/登録)セミナー」、「こどもまちづくりセミナー」、「学生まちづくりセミナー」、「展示案内ボランティアセミナー」の8種類^{注1}が実施されていました。

平成18年度からは、京町家所有者の交流と情報共有を目的とした「京町家所有者・居住者の集

い^{注2}」がはじまり、平成25年度には、京町家の保全・再生に係る専門家を対象にした「京町家専門講座^{注2}」がはじまりました。

セミナー参加者は14年間で延べ約14,900名に上り、「景観・まちづくり大学」を通して、市民、専門家、事業者など様々な景観・まちづくり関係者に京町家の保全・活用やまちづくり活動などの情報発信や啓発が日常的に行える土壌が作られつつあります。

中でも、主に京町家の所有者、居住者を対象に、京町家の維持、管理等に関する基本的な課題の解決を目的とする「京町家再生セミナー」と市民を対象に、京都のまちづくりの歴史を学び、これからのまちづくりを考えるきっかけとする「京のまちづくり史セミナー」の参加者は多く、京町家やまちづくりの歴史に関する市民の意識の高さを伺うことができます(表3-2-1)。

このように、まちセンでは「景観・まちづくり大学」を通して、市民、住民、専門家、事業者など様々な対象者に、市民団体、職能団体、学識者、行政など多くの専門家と協働することで、複雑化する京都の景観・まちづくりの課題に対して、多種多様なテーマを持ったセミナーを継続的に開催し、最新の情報を発信・受信し続けています。

表3-2-1 景観・まちづくり大学の年度別参加者数(平成29年3月現在)

セミナー名	セミナー別合計	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
地域まちづくりセミナー(出前セミナー)	647	180	83	188	21	—	33	12	※	※	15	—	—	115	—
京町家再生セミナー	4,545	337	390	403	285	346	319	319	198	201	217	381	552	382	215
京のまちづくり史セミナー	3,684	239	187	292	243	181	280	214	231	184	267	281	367	437	281
まちづくり実践塾(情報発信セミナー)	2,186	98	144	151	151	156	87	197	243	310	157	188	115	189	0
まちづくり専門家セミナー(交流会)	924	70	102	73	34	106	75	59	62	83	44	103	—	113	—
こどもまちづくりセミナー	906	12	54	32	20	27	79	160	60	170	17	275	—	—	—
学生まちづくりセミナー	541	34	6	92	33	44	50	94	32	30	126	—	—	—	—
展示案内ボランティア交流会	212	66	48	—	—	—	—	26	28	40	4	—	—	—	—
京町家所有者・居住者の集い	432	—	—	—	—	74	73	20	69	81	55	60	—	—	—
京町家専門講座	839	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	189	343	132	175
合計	14,916	856	931	1,043	766	934	963	1,089	923	1,099	887	1,477	1,377	1,253	671

※参加者不明

景観・まちづくり大学のセミナー概要

景観・まちづくり大学等で実施されているセミナーの概要は以下の通りです。

① 「地域まちづくりセミナー」は、地域住民を対象に、まちづくりを始めるきっかけづくりや、まちづくりに関するより実践的な方法を学ぶことで地域活動の充実を図ることを目的としています。「京のまちづくり史セミナー」は、市民を対象に、京都のまちづくりの歴史を学び、これからのまちづくりを考えるきっかけとすることを目的としています。

② 「京町家再生セミナー」は、主に京町家の所有者、居住者を対象に、京町家の維持、管理等に関する基本的な課題の解決を目的としています。

③ 「まちづくり実践塾(情報発信セミナー)」は、まちづくりに関心の高い市民、学生、専門家を対象に、まちづくりに関する種々の情報を発信し、広くまちづくりへの参画意識の向上を目的としています。

④ 「まちづくり専門家セミナー(交流会)」は、まちづくりに携わる関係者の交流会及び有識者を講師として招き、新しい知見やアイデアを獲得するとともに景観・まちづくりを支援する専門家の育成を図ることを目的としています。

⑤ 「こどもまちづくりセミナー」は、地域のこどもたちが様々な世代の人たちと交流する中で、地域の魅力を知り、大切に思う心の醸成と、地域全体としてこどもたちとの関わりを深めることを目的としています。

⑥ 「学生まちづくりセミナー」は、地域住民との交流など、学生がまちづくりに関わる機会を創出することを目的としています。

⑦ 「展示案内ボランティア交流会」は、展示コーナーの案内を担当しているボランティアの交流とスキルアップを目的としています。

⑧ 「京町家所有者・居住者の集い」は、京町家の所有者、居住者等が相互に情報交換し、連携することによって、その維持、管理等に対する共通課題の解決等を見出すことなどを目的としています。

⑨ 「京町家専門講座」は、建築、不動産業等に携わる専門家を対象に、京町家に関する概論、技術、流通、制度等を学ぶことを目的としています。

以下では、景観・まちづくり大学が始まる以前からまちセンが取り組んできた「京町家再生セミナー」、「京のまちづくり史セミナー」に加えて、参加者数が多い「地域まちづくりセミナー」を紹介します。

(1) 地域まちづくりセミナー

まちセンが設立された当初、地域まちづくりは多種多様な地域の課題を解決するため、地域として何をすればいいか、住民自らが実現したいまちづくりを主体的に取り組んでいくということがいわれ始めましたが、具体的に何からはじめて、どのような手順でそうした課題解決に向けた取組を進めればいいのか、わからないという地域も多くありました。

そこで、地域まちづくりセミナーは、地域住民を対象に、まちづくりを始めるきっかけづくりやプロセスを一緒に体験し、まちづくりに関するより実践的な方法を学ぶことで地域活動の充実を図ることを目的としています。地域まちづくりセミナーで求められる役割は、以下の3点があげられます。

- ・地域やまちづくりの各主体に対して、まちづくりを始めるきっかけをつくる
- ・まちセンの存在や役割を地域やまちづくりの各主体に知ってもらう
- ・専門家の存在や役割を地域やまちづくりの各主体に知ってもらい、具体的な課題解決を目指す地域においては、専門家とのネットワークをつくる場とする

① 行政区単位の呼びかけ

まちセンが設立されてから、数年間は、地域まちづくりを地域住民が主体的に進めるためのきっかけづくりを第一の目的として、課題の構造が比較的似ていると考えられる行政区ごとに取組を進めました。

ア. 上京区(乾隆、春日、桃菌、中立、滋野、成逸、京極、西陣、正親、聚楽、待賢)

平成10年度は、上京区を対象に地域まちづくりセミナーを4回開催し、11学区から33名、まちづくりの専門家40名の参加を得て、「誇りを持ち、安心して生き生きと暮らすまちづくり」に向けた『いきいき定住物語』



図3-2-2 いきいき定住物語の表紙

を作成しました(図3-2-2)。セミナーにおいて、上京区の多くの地域にとって、目に見えるまちづくりのテーマである「京町家」「マンション」「袋路」の課題について、チームに分かれ、解決に向けた取組をそれぞれの物語として取りまとめました。それぞれの問題は、その所有者、居住者の課題であり、地域住民によるまちづくりの課題として認識されていませんでしたが、セミナーでの対話や『いきいき定住物語』の作成を通して、こうした課題を地域として考えて取り組む、新しいまちづくりの進め方を議論しました。

イ. 東山区(有濟、六原、清水、貞教、修道、一橋、月輪)

平成12年度は、東山区を対象に、7学区から約50名の参加を得て、平成13年1月25日から5回のセミナーが開催されました。東山区では、まちづくり専門家だけでなく、京都市自治100周年(平成10年度)を記念する東山区の取組である学区民による防災マップづくりに参加した市職員もボランティアで参加し、学区ごとのグループに分かれ、自分たちのまちの魅力や課題などを場所、人、活動等の様々な視点から振り返り、「誇りを持ち、安心して生き生きと住み続けられるために」まちの資源を活かしてどのようなことが実践できるかを議論しました。また、西陣学区や本能学区の方々

からの話題提供や大阪の平野郷のまちづくりの視察に行くなど、学区を越えた様々な人との交流を図りました。

ウ. 上京区(成逸、乾隆)、中京区(竹間、教業)、下京区(有隣、菊浜)

平成13年度は、上京区、中京区、下京区にある6学区から32名の参加を得て、平成14年2月7日より、4回のセミナーを実施しました。各学区で議論し、いくつかの学区では、「まちづくり委員会」の設置を地元地域で提言することやマンションとの共生に向けたまちづくりなど、新しいまちづくり活動が展開されることとなりました。

エ. 山科区(鏡山、安朱、西野、山階、音羽、大塚、陵ヶ岡、大宅、百々、山階南、勸修)

平成14年度は、まず、山科区の11学区58名の参加を得て、学区ごとに話し合い、まちづくり専門家と共にまとめた学区の将来像をまとめました。セミナー終了後に、セミナーで学んだことについて学区内で報告会を開催した学区や、同様のセミナー(ワークショップ)を学区内で計画した学区などもあり、具体的な計画を立てて活動が展開されるなど継続した取組につながりました。活動が継続された地域においては、地域活動交流会を行い、情報交換も行いました。

オ. 北区(西陣地域:紫野、柏野、衣笠)、伏見区(深草地域:藤城、深草、藤ノ森、砂川、稲荷)

平成15年度からは、景観・まちづくり大学の一部として実施され、北区西陣地域の3学区を対象に3回、伏見区深草地域の5学区を対象に4回の連続セミナーを実施しました。

②具体的課題整理、解決に向けた実践的地域まちづくりセミナー

地域まちづくりセミナー実施開始から、5年ほど経

過すると、各地域で独自の課題を設定し、具体的な活動を実施するようになり、地域のまちづくり活動に変化が現れてきました。いくつかの学区では、まちづくりの主体となる組織として「まちづくり委員会」が立ち上がるなど、地域まちづくりセミナーで広く、まちづくりのきっかけを促すという目的は一定果たされつつありました。一方で、各地域の個別課題に取り組むサポートは、まちセンの専門家派遣事業に加え、国土交通省の「都市再生モデル調査」を利用したものや京都市の「地域の安心安全ネットワーク形成事業^{注3}」など、より具体的な課題整理やまちづくりのビジョン作成に向けたものにシフトしてきました。

地域まちづくりセミナーでは、平成13年度より、まちづくりの意義や方法について学ぶセミナー「基礎編」に加え、まちづくりの具体的な手法を学ぶセミナー「ステップアップ編」を開催して対応してきました。具体的な課題に対応したセミナーとして、平成16年度は、上鳥羽学区の安心・安全のまちづくりに関するセミナーを実施したり、平成20年度には、桂坂地区に対し、建築協定、地区計画等に関する説明を実施したりするなど、より専門的かつ具体的な活動の支援をするようになりました。

一方で、こうした具体的な課題整理・解決に向けた専門的なセミナーに関しても、近年では、地域まちづくりセミナーとしてではなく、専門家派遣の専門家を通して実施したり、各地域のプロジェクトの中で実施できるようになってきています。しかし、新しくまちづくりに取り組む地域や都市部全域の課題である密集市街地・細街路対策に取り組む「防災まちづくり」など新しい課題に対しては、引き続き、地域への情報発信、啓発のために地域まちづくりセミナーの役割が期待されており、まちセンでは、平成27年度に京都市から「防災まちづくり専門家派遣」事業を受託したことを契機に、再度、上京区を対象に「防災まちづくり」を考える「京町家」「空き家」「袋路地・細街路」をテーマとして地域ま

ちづくりセミナーを実施しました。

(2)京のまちづくり史セミナー

京都の地域には、それぞれ固有の歴史があり、隣り合う元学区でもその特徴は大きくことなっています。これは、平安京以来、歴史的に蓄積されてきた地域のコミュニティや社会規範、祭などの風俗習慣、商いによる産業基盤などの影響を受けているからと考えられます。

このため、景観の保全・創造や質の高い住環境の形成を目指した住民の主体的な地域まちづくりには、このようなそれぞれの地域特性を活かし、まちの既存の文化風土を読み解いて、現在の地域の置かれた状況を歴史的必然性として把握することが、地域の将来像を描く上で欠かせません。また、こうした地域の情報は、地域住民においては、まちづくり活動の目的意識や将来像の明確化と参加の促進に寄与し、企業や事業者においては地域の理解を促進させ、まちづくり活動を支援する専門家においては、地域まちづくりの基礎知識となることが期待されます。つまり、「まちづくりの歴史」はパートナーシップのまちづくりにおいて、地域の目指す価値共有を推進する上で、それぞれの主体にとって不可欠の情報・知識であるといえます。

①京都のまちづくり史調査研究委員会の設置

このような認識のもと、まちセンは京都のコミュニティやまちの成り立ちについて、客観的かつ正確な理解を促進する「まちづくり史」として、調査研究するために、平成13年度に、「京都のまちづくり史調査研究委員会(以下まち史委員会)」(表3-2-2)を立ち上げ、第一回のまち史委員会を平成13年11月5日に開催しました。

まち史委員会では、都市史、建築史などの学識者と協働し、歴史の節目で今日の地域を特徴づけてきた「まちづくりの歴史」をどのような主体にとっても分かりやすく、身近な情報として、また、京都のま

ちの歴史や成り立ちを客観的かつ正確に理解できるものとしてまとめることが確認されました。また、調査研究は1200年に及ぶ京都のまちづくり史を概観し、現在のまちづくり、そして、今後のまちづくりに資するものとし



図3-2-3 京・まちづくり史 表紙

て継続性を持たせることを重要視し、特に、近代に重点を置いて調査研究を進めることとしました。

また、当時、平成15年度にまちセンが新施設に移ることに先立ち、その情報基盤の充実に向けて、施設内に市民に開かれた展示施設を整備することが同時に計画されていたことから、その展示内容の検討も切り口として、議論を進めることとしました。

この調査研究で得られた成果は、施設の展示に留まらず、まちづくりにかかる人材育成を目的とするセミナーのカリキュラムにも反映することとされ、結果、平成15年には「京のまちかど」(3-3-(2)①展示施設「京のまちかど」参照)として施設展示に結実し、調査内容は「京・まちづくり史(図3-2-3)」としてまとめられ、出版されるとともに、調査内容をもとに平成15年度より「京のまちづくり史セミナー」を開催することとなりました。

表3-2-2 京都のまちづくり史調査研究委員会(肩書きは当時)

京都の礎部会		
監修	高橋康夫	京都大学大学院工学研究科教授
座長	日向進	京都工芸繊維大学工学部造形工学科教授
	小出祐子	京都工芸繊維大学大学院博士課程
	菅井聡子	京都大学大学院人間・環境学研究科博士課程
	丸山俊明	丸山建築設計事務所
	中嶋節子	大阪府立大学大学院生活科学研究科専任講師
近・現代部会		
座長	中川理	京都工芸繊維大学工学部造形工学科助教授
	石田潤一郎	京都工芸繊維大学工学部造形工学科教授
	大菅直	京都近代都市空間研究会
	大場修	京都府立大学人間環境学部環境デザイン学科教授
	岸泰子	京都大学大学院工学研究科博士課程
	登谷伸宏	京都大学大学院工学研究科博士課程
	丹羽結花	京都工芸繊維大学工学部造形工学科助手
	水島あかね	神戸大学大学院自然科学研究科博士課程

②京のまちづくり史セミナー

京のまちづくり史セミナーでは、まちづくりに関心の高い市民、学生、専門家を対象に、京都の景観形成とまちづくりの歴史を学び、京都の景観形成に資するまちづくりに対する理解を深めることを目的としています。

開設以来延べ約3,700人の参加があり、多くの市民がまちづくりの歴史を学んでいます(図3-2-4)。平成28年度は全9回の連続講座として実施し、学識者や有識者から最新の調査事例を交え、古代から近世にかけてのまちの成り立ちや特徴、近代における学区による自治、都市整備基盤としての区画整理事業とそこに供給された住宅群、そして現代における景観の変化やコミュニティなど、京都の重層的なまちづくりの歴史を体系的に取り上げました(表3-2-3)。

多くの市民が、京都の景観やまちの形成にどのように、町衆(市民)が関わってきたか、人々のまちづくり活動の歴史を学び、見識を深めることで、京都のまちづくりに寄与しています。

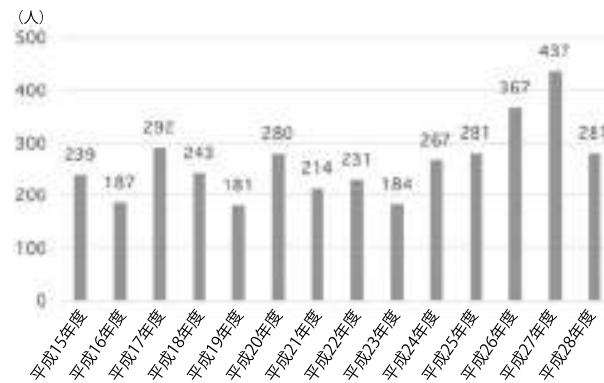


図3-2-4 京のまちづくり史セミナーの年間受講者数推移

表3-2-3 平成28年度京のまちづくり史セミナー 実施概要

開催日	講座名	講師
平成28年4月26日	京都の都市計画とまちづくり:古代から中世	高橋康夫(花園大学教授、京都大学名誉教授)
平成28年6月10日	近世都市・京都の形成と変容:禁裏と町	岸泰子(京都府立大学准教授)
平成28年7月8日	近代京都の基盤整備:近代化への受容と抵抗	中川理(京都工芸繊維大学大学院教授)
平成28年9月2日	近代都市をめざして:風景の発見と景観の創造	中嶋節子(京都大学大学院教授)
平成28年10月21日	近代の自治と学区:学区制度の成立と終焉	和崎光太郎(京都市学校歴史博物館学芸員)
平成28年12月14日	新たな都市空間の誕生:市街地の拡大と郊外の景観形成	石田潤一郎(京都工芸繊維大学大学院教授)
平成28年12月21日	区画整理による住宅地と新型町家の形成過程	大場修(京都府立大学大学院教授)
平成29年2月3日	自治組織の変遷とまちづくり活動の多様化	乾亨(立命館大学教授)
平成29年3月3日	現代の景観と土地利用(町並みとコミュニティ)	高田光雄(京都大学大学院教授)

(3)京町家再生セミナー

京町家再生セミナーは主に京町家の所有者、居住者を対象に京町家の維持、管理等に関する基本的な課題の解決を目的として平成13年度からはじまり、平成15年度からは、景観・まちづくり大学のセミナーとして年間を通して開催されています。また、単なる市民講座としてではなく、「京町家なんでも相談」で関心を持った所有者・居住者に理解を深める機会を提供し、再生、活用、継承に向けた意欲を高める取組として、連携して実施しています。

京町家の保全・再生に向けた課題は多岐に渡りますが、京町家再生セミナーでは、大きく分けて、耐震・防火や住環境改善などの「改修」、相続などの「税法」、助成金や金融ローンなどの「資金調達」、賃貸や売買などの「活用方法」、京町家の魅力や維持管理などの「暮らし」などを主題に開催しています(表3-2-4)。また、平成19年度からは、「京町家所有者・居住者の集い」を開催し、京町家の所有者・居住者と京町家再生セミナー受講者、京町家まちづくりファンドの改修助成事業の対象者

表3-2-4 平成28年度京町家再生セミナー 実施概要

開催日	講座名	講師
平成28年4月21日	「大工さんに教わる～町家によるこぶ!改修方法」	宮田裕一(京都府建築工業協同組合)
平成28年5月21日	「設計士さんに教わる～町家をべっぴんさんによりみがえらせる技」	栗山裕子(NPO法人古材文化の会副会長)
平成28年8月27日	「京町家をゆく上京編」～京町家と年中行事、夏から秋の移ろいの中で～	水野歌夕(写真家・水野克比古フォトスペース「町家写真館」館長)
平成28年9月15日	「京の路地と京町家」	森重幸子(武庫川女子大学講師)
平成28年11月10日	「京町家の専門家集団に学ぶ!不動産知識」	林茂(京町家居住支援者会議会長) 吉田光一(京都府宅地建物取引業協会)
平成28年12月19日	「京町家を長く素敵に維持するためのメンテナンス」	浜谷富美子(すまいの雑貨店「sumao」オーナー) 荒木智(株式会社アラキ工務店常務取締役)
平成29年2月19日	「京の路地と京町家歴史と安全を引き継ぐために」	木村孝雄(一般社団法人京町家作事組)
平成28年5月28日	「京町家をゆく伏見街道編」～町家キャンパス3年間の歩み	松井薫(龍谷大学深草町家キャンパス設計者)

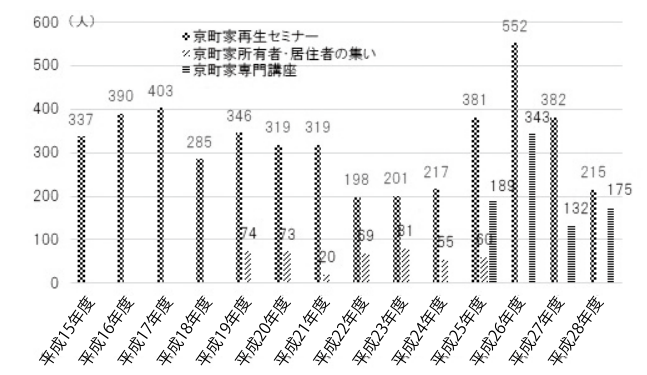


図3-2-5 京町家再生セミナー等の年間受講者数推移

など、自ら京町家の保全・再生・活用に取り組んでいる人やこれから取り組む人たちの相互の交流、関係団体との交流の機会を創出しました。

平成25年度からは、京町家の専門家を対象として、「京町家専門講座」を開催し、京町家に関するさまざまな支援制度や改修事例の見学などについて、実際の事例を交えて、より実践的な講座を実施しています。専門家のスキルアップを目的とした京町家専門講座と所有者・居住者に向けた京町家再生セミナーとの両輪による京町家の保全・再生・活用・継承への取組が可能となりました。

3-3 まちづくり活動の拠点施設の運営・管理

【参考文献】

- 1) まちセンHP 活動実績
(<http://kyoto-machisen.jp/result/>)
- 2) ニュースレター 京まち工房 第15号 平成13年6月
- 3) ニュースレター 京まち工房 第16号 平成13年9月
- 4) ニュースレター 京まち工房 第34号 平成18年3月
- 5) 財団法人京都市・景観まちづくりセンター
「いきいき定住物語」平成10年度
- 6) リム ボン、まちづくり研究会編著
「まちづくりコーディネーター」株式会社学芸出版社
平成21年
- 7) 財団法人京都市・景観まちづくりセンター
「京都のまちづくり史調査研究委員会企画・運営記録」
平成15年
- 8) 高橋康夫、中川理編「京・まちづくり史」昭和堂 平成15年

【注】

- 注1:当初、京町家再生セミナーと京町家まちづくりセミナーは異なるセミナーとして実施されていたが、平成16年度より、京町家再生セミナーに統合されている。
- 注2:京町家所有者・居住者の集いと京町家専門講座は、景観・まちづくり大学としてではなく、自主事業として実施している。また、京町家専門講座は、もともと非公開で実施していた京町家専門相談員向けの研修会を一般化したものである。
- 注3:「地域の安心安全ネットワーク形成事業」は京都市によって平成16年度より実施された事業で、子ども見守り隊や防災訓練、高齢者宅への訪問など幅広い分野で、地域の安心安全の確保に向けた取組を学区ごとに展開している。平成22年度までに全227学区に取組が拡大した。(WEB版京都市政報告書HP参照)

平成15年6月の「ひと・まち交流館 京都」(下京区、旧菊浜小学校)の開館に伴い、まちセンは、同館の地下1階に移転し、併せてまちづくり活動の拠点施設として、京都市より下記の施設の運営・管理を受託し、景観・まちづくりに関する相談、情報の発信、施設の提供などを行っています。

以下、主として「京都市景観・まちづくりセンター利用の手引」により概要を紹介します。

(1)施設利用及び情報発信

①施設利用

まちづくり交流サロン、図書コーナーなどを予約不要で利用できます。また、ワークショップルーム、まちづくり工房など、まちづくり活動を行う団体が活動できる施設、設備を整備しており、登録団体へ貸し出しを行っています。



図3-3-1 1階から地下1階への階段より



図3-3-2 フロアマップ

②情報発信

各種セミナーや展示施設「京のまちかど」、京町家情報コーナーなど、景観・まちづくりに関する情



図3-3-3 セミナーの様子

報を発信し、市民の活動を応援しています。また、まちづくり活動を行う団体がまちセンのホームページやメールマガジンを使って、広報活動を行うことができます。

■三都連携事業 パネル巡回展

市民の住まい・まちづくりを支援する関西三都市の支援組織



図3-3-4 三都市巡回パネル展

である「京都市景観・まちづくりセンター」、「京安心住まいセンター」、「大阪市住まい情報センター」、「神戸市すまいの安心支援センター(すまいるネット)」の四者が連携して平成21年度から毎年度「三都連携事業」を実施しています。平成29年度は、神戸で三都連携事業シンポジウム「空き家の価値を考える」を開催し、「空き家を活用したいけれど、古い家には市場価値がないし、手立てがない」という状況に、別の角度から光をあてる発想で実践をされている方たちをお招きしてお話をお聞きしました。本シンポジ

ウムに関連して、三都市での空家に関する主な取り組み事例等を紹介するパネル巡回展を実施し、京都では1月23日～2月5日の間、まちセンの地下1階の階段室周りのスペースを活用して開催しました。

(2)まちセンで学ぶ／知る／体験する／調べる

①展示施設「京のまちかど」(1階)

平安時代から現代までの京都のまちづくりの流れや町並みの様子を、模型、ビデオ、パネルなどを活用してわかりやすく展示しています。床面には平成12年の大きな航空写真を展示し、壁面にも昭和21年の写真があるので、京都の地形の変化や市街地の広がり、さまざまな観光地・施設を空から見るように読み取ることができます。

また、室町、安土・桃山、江戸、近代と当時の京町家・町並みの様子を模型でわかりやすく展示しているほか、情報案内箱では、京都のまちづくりの様子や暮らしの変遷についてタッチパネルで紹介しています。ホームページコーナーでは、まちセンホームページなどを閲覧することができます。



図3-3-5 京のまちかど



図3-3-6 京のまちかど展示物

<これまでの来場者数 45万5千人>

☆ボランティアガイドについて

京のまちかどでは、知識豊富なボランティアガイドが活躍中。展示をはじめ京都のまちづくりの歴史のわかりやすい説明を聞くことができます。(3-2(2)①「京都のまちづくり史調査研究委員会の設置」参照)

②「ひと・まち交流館 京都」図書コーナー

市民活動・福祉ボランティア・まちづくり・高齢者福祉の各分野に係る図書・視聴覚資料・雑誌・地図等を書架に分類して、閲覧、貸出を行っています。特に、景観・まちづくりに関する専門書や学術書、行政資料等を数多く取り揃えています。また、全国紙の閲覧場所があり、過去1年間の朝夕刊の閲覧も可能です。さらに、子供向けの絵本も多数揃え、必要な図書を探すお手伝いもしています。ホームページから蔵書の検索を行えます。

<これまでの来場者数 24万2千人>



図3-3-7 図書コーナー

■巽和夫記念文庫

故巽和夫氏(元京都大学名誉教授、元京都市建築審査会会長、元全国建築審査会協議会会長、都市住宅学会初代会長)のご遺族や有志による「巽和夫記念文庫プロジェクトチーム」(代表高田光雄 京都美術工芸大学工芸学部長兼建築学科長教授)のご協力の下、巽氏が所蔵されていた住まい・まちづくりに関する資料2,105冊の蔵書を、当財団にご寄贈いただきました。これを広く市民の皆様

にご活用いただけるよう、平成28年に「ひと・まち交流館 京都」地下1階図書コーナーに同文庫を設置しました。

今後、この文庫を核に、住まい・まちづくり系大学の研究室との連携を推進し、ビブリオバトルの実施、研究発表・交流の場の提供などを行い、施設管理者として、図書コーナーの積極的な活用を図っていく予定です。



図3-3-8 巽和夫記念文庫

③国宝上杉本洛中洛外図屏風(複製パネル)

安土桃山時代、信長・秀吉の天下人のもとで活躍した天才画家、狩野永徳が当時の京の市街(洛中)と郊外(洛外)の風俗を描いたとされる屏風絵を現代のデジタル技術で再現しています。

永禄8(1565)年に完成したこの作品には、当時の町衆や武士、貴族達の生活が鮮やかに描き込まれ、美術品としての価値の高さはもとより、当時の都市景観や建築様式、祭りや芸能、商業座などを知る上でも貴重な資料です。

祇園祭や御霊会等の祭事、菖蒲の節句や孟蘭盆会等の季節の行事等々、多彩なテーマのもと定期的にギャラリートークを開催しています。



図3-3-9 洛中洛外図屏風

④京町家情報コーナー

平成16年10月に開設。京町家の構造などが分

かる模型や京町家の防火・耐震に関する模型、京町家に使用される木材の見本などを展示



図3-3-10 京町家情報コーナー

しています。また、京町家に関する活動団体の活動紹介や京町家まちづくり調査、京町家再生プランの概要等をパネル展示しています。

平成29年9月現在、「ミニチュアハウスと紙彩画による着物づくりと京町家」展をあわせて開催中です。

(3)まちセンで活動する/つくる

①まちづくり交流サロン

まちづくり交流サロンは、どなたでも自由に利用していただけるスペースです。

※Wi-Fiが利用できます(KYOTO Wi-Fi)。



図3-3-11 まちづくり交流サロン

②ワークショップルーム(2室:各定員50名、間仕切り可動)

音響設備、スクリーン、プロジェクターを兼備しています。少人数のセミナー、ワークショップから大人数の会議、シンポジウム等の会場として活用が可能です。



図3-3-12 ワークショップルーム

3-4 広報活動および賛助会員

③まちづくり工房

印刷機や紙折機等の製本機器を用意しています。地域や団体の広報誌やチラシ、資料作成に活用が可能です。

〈 設備リスト〉

印刷機(白黒)、紙折機 2台、製本機 2台、裁断機 1台、強力パンチ 1台

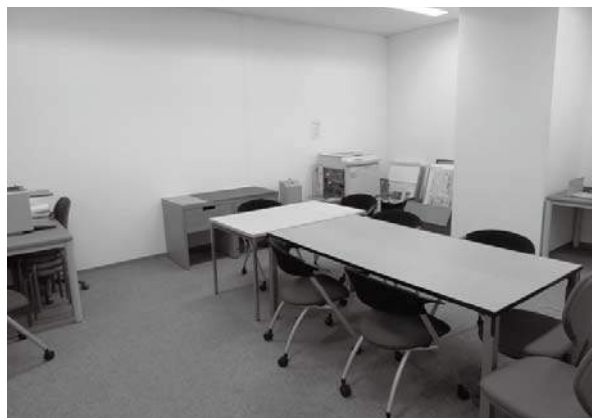


図3-3-13 まちづくり工房



図3-3-14 まちづくり情報コーナー

(4)まちセンでつながる/発信する

ホームページ・メールマガジン等で広報する。

○ホームページ【平成28年3月にリニューアル】

景観・まちづくりに関する最新情報やセミナー等のお知らせを発信するホームページを運営しており、イベント情報や活動報告を掲載することができます。

○メールマガジン【登録者数約1,700名(平成29年9月末時点)】

景観・まちづくりに関するイベントやお知らせについて、当センターのメールマガジンで配信することができます。

○まちづくり情報コーナー

景観・まちづくりに関するイベント等のチラシやリーフレット、ポスターなどを、まちづくり情報コーナーに配架・掲示することができます。

(1) 広報活動

①ニュースレター「京まち工房」

景観・まちづくりに関する各種情報及び地域、関係団体等の活動状況、まちセンの事業等を掲載した広報紙ニュースレター「京まち工房」を発行しています。賛助会員及び関係団体、大学、区役所等に送付、配架し、広く市民のまちづくりに対する意識を普及・啓発しています。

- ・発行回数:年4回(6月、9月、12月、3月)
- ・発行部数:各号4,500部
- ・配布先:賛助会員、全国のまちづくり関連機関、京都府下大学等
- ・発行実績:第1号(平成9年12月)~第81号(平成29年12月)

掲載記事の内容は、補章-6に掲載する「ニュースレターのアーカイブ(第1号~第80号)」に見られるように、時代ごとに変遷があります。その中で、第1号から継続的に掲載を行ってきた「私と京都」のコーナーでは、企業や行政の方、まちセンの理事、評議員の方など多彩な顔ぶれの方々がそれぞれの京都への思いを寄稿されています。本節の末尾に、この「私と京都」に寄稿して頂いた方々のお名前、顔写真、タイトルを整理して末尾に掲載します。

②財団ホームページ等

従来は、まちセンの事業、施設管理に関する情報を一つのホームページで一体的に運用していましたが、平成28年3月からは、施設の利用や景観・まちづくり大学に関する情報を主に扱うホームページと、まちセンの事業の取組や景観・まちづくりに関する最新情報を発信するホームページの2つのホームページを設けて運用を始めました。また、情報発信力を高めるため、新たに財団公式フェイスブックページを開設し、イベント情報やまちセンの活動状況等を積極的に発信することで情

報力強化に努めています。以下に、平成28年度における実績値をご紹介します。

- ・財団独自ホームページアクセス件数
68,483件(平成28年3月後半から運用開始)
- ・ひと・まち交流館内・センター(施設)
ホームページアクセス件数
233,125件(平成27年度末実績 304,771件)
- ・メールマガジンの配信
39回(平成27年度末実績 54回)
- ・メールマガジン購読者数
1,688人(平成27年度末実績 1,612人)
- ・公式フェイスブックページ投稿数
61件(平成28年8月から運用開始)

③ラジオの活用による情報発信活動

平成21年度から平成26年度の6年間に及んで、市民等による先進的なまちづくりの取組紹介や当センターの活動をまちづくりに関心のある市民等に広く発信することを目的として、特定非営利活動法人京都コミュニティ放送(京都三条ラジオカフェ)の番組「まちづくりチョビット推進室」において情報を発信しました。

*番組名:『まちづくりチョビット推進室』

年間4回の収録、1回収録分につき月4回放送
第3及び第4土曜日15:30~16:00、第3及び第4日曜日10:30~11:00
番組の内容は、『まちづくりチョビット推進室』のホームページでも配信



表3-4-1 放送内容の事例(平成25年度)

開催日	タイトル及び概要	ゲスト
平成25年6月	「HAPSさんで存知ですか?」芸術家が京都に住むための総合サポート窓口として活動しているHAPSの紹介 ほか	HAPS(東山アーティスト・プレイズメント・サービス実行委員)ディレクター 芦立さやか氏 ラジオ愛好家(アーティスト) 毛原大樹氏
平成25年8月	「災害は我が事、まずは死なない、怪我しない。」京都の地域防災とその現状、大規模防災訓練 ほか	防災寺子屋・京都代表、朱八地域自主防災会専門協力員 太田興氏 中京区役所地域力推進室 足立勇一氏
平成25年9月	「修徳まちなみ文化財って存知ですか?」修徳学区における修徳まちなみ文化財選定の取組について ほか	京都府建築士会まちづくり委員会 眞正康氏 修徳まちなみ文化財選定会議 田中直輔氏
平成25年11月	「京都の弱点を逆手に取る(略)」町家等の地域資源を活かした設計活動に ほか	魚谷繁礼建築研究所 魚谷繁礼氏
平成25年12月	「姉小路境界がすごい!みなさん…すごいよ。」姉小路境界を考える会の発祥から、地域と企業の共生、姉小路の古い町並み保全の取組 ほか	姉小路境界を考える会事務局長 谷口親平氏
平成26年2月	「京都銭湯部って存知ですか?」～日暮手傳舎って存知ですか?」銭湯を通じた地域交流の活動、さらに町家等の維持管理における町医者を目指す日暮手傳舎の活動 ほか	京都銭湯部部長、京都建築専門学校非常勤講師、日暮手傳舎代表 吉田玲奈氏

(2) 賛助会員

まちセンでは住民、企業、行政が力を合わせて、美しい京都のまちを守り育てていく、パートナーシップのまちづくりを推進しています。活動趣旨に賛同していただける方を賛助会員として募集しています。賛助会員には、ニュースレターの送付、シンポジウム、セミナー等のご案内などの特典を設けています。

賛助会員には、個人会員、団体会員があり、年会費を納めていただきます。

<年間会費>個人(1口) 5,000円
団体(1口) 50,000円

表3-4-2 賛助会員の入会状況

種別	延べ人数、団体数	会費収入	
		個人	団体
個人会員	235人(201人)	1,435,000円(1,545,000)	
団体会員	22団体(20団体)	1,110,000円(1,100,000)	2,545,000円(2,645,000)

平成28年度末 ※()内は平成27年度末の実績。

まちセンでは、賛助会員の拡大を目指し、まちセンの事業活動を通じ積極的な呼び掛けを行うほか、団体会員の増加のため企業訪問等を行っ

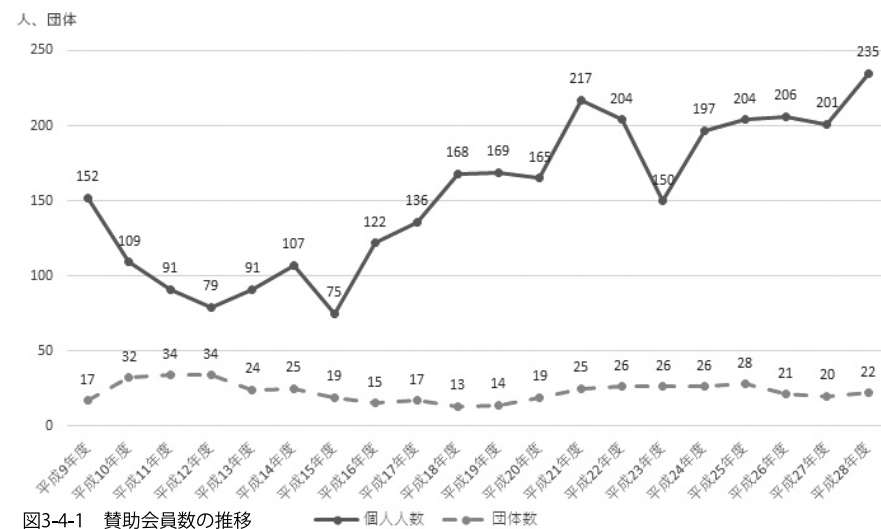


図3-4-1 賛助会員数の推移

ています。

また、平成28年から賛助会費が所得税の税額控除(従前は所得控除)対象となり、会員のメリットが高まったことから、これを積極的にPRし、新たな新規会員の拡大に努めました。

<所得税の税額控除の概要>

まちセンへの寄附(賛助会費、京町家まちづくりファンド等)が、確定申告により、従前の「所得控除」から節税効果の高い「税額控除」が認められる団体として、京都市の外郭団体としては最初に京都府から承認されました。医療費控除やふるさと納税等で、確定申告をされる方は、その際、まちセンから交付する「寄附金受領証明書」を追加するだけで、以下に記載の節税効果があります。

表3-4-3 税額控除を選択した場合の税の控除額(例)(京都市に在住されている方)

寄附額	5千円 (賛助会員1口)	1万円 (賛助会員2口)	2万円	5万円	10万円
所得税還付額及び住民税減税額の合計(目安)	1,500円	4,000円	9,000円	24,000円	49,000円

 1号 不易と流行 宇戸 純子 まちセン評議員 京都芸術短期大学造形学術学科講師	 12号 京都というアイデンティティ 高田 光雄 まちセン評議員 京都大学大学院工学研究科 助教授	 23号 “まちセン”に期待する 河内 隆 京都市副市長
 2号 芽生えから若木へ 絹川 雅則 まちセン評議員 (社)京都府建設協会青年部 直前会長	 13号 ふたつの都をみて 宗田 好史 まちセン評議員 京都府立大学人間環境学部 助教授	 24号 統廃合小学校大学化構想 巽 和夫 京都大学名誉教授
 3号 京都の街に住まいつづける 栗山 裕子 まちセン評議員 京都府建築士会常任理事 古材文化の会事務局長	 14号 京都・学び始め 河邊 聡 京都工芸繊維大学工学学部 教授	 25号 京町家に生まれ育って 高島 恵美子 京・町家文化館 副館主
 4号 ちょっと他人行儀でいい? リム ボン まちセン評議員 立命館大学産業社会学部 助教授	 15号 疎開道路と疏水 井手 正己 社団法人京都府建築士会会長	 26号 冬景色の思い出から 大谷 孝彦 京町家再生研究会 理事長
 5号 八角九重の塔の再建を夢見る 梶田 真章 まちセン評議員 法然院貫主	 16号 都市研究の原点として 三村 浩史 まちセン理事 京都大学名誉教授 関西福祉大学教授	 27号 1冊の本との出会い 大島 仁 京都市都市計画局長
 6号 (無題) ベネロベ・クリーグマン まちセン インターシップ 研修生	 17号 古き伝統と新しい試み 金剛 育子 能楽金剛流宗家夫人	 28号 東山に生きる職人として思うこと 木村 忠紀 京都府建築工業協同組合理事 株式会社木村工務店 代表取締役
 7号 京都の景観について思う 新井 一樹 まちセン評議員 京都商工会議所青年部顧問	 18号 いつまでも魅力あるために 絹川 治 社団法人京都府建設協会 会長 公成建設株式会社 社長	 29号 三山に想う 野間 光輪子 京都府建築士会 常任理事 「望月」女将
 8号 地蔵盆にみる京都のまち 浅岡 美恵 まちセン評議員 環境市民共同代表、弁護士	 19号 「協創」～創造都市への ルネッサンス～ 立石 義雄 オムロン株式会社 代表取締役社長	 30号 安全で、安心して暮らせるまち 高瀬 博章 春日住民福祉協議会 会長
 9号 魅惑の「みやこ」 東樋口 護 まちセン評議員 京都大学工学部助教授、 京都のまちづくりを考える会 会長	 20号 もう一度行ってみたいと思われ まち「京都」に 平井 義久 京つけもの西利 代表取締役社長	 31号 雰囲気のあるまちづくり 毛利 信二 京都市副市長
 10号 京都の職人力 長谷川 和子 まちセン評議員 (株)京都放送取締役	 21号 古くて新しいまち『京都』 海堀 安喜 京都市都市計画局長	 32号 消えない虹を求めて 西嶋 直和 本能まちづくり委員会 委員長
 11号 博多から京都まで 乾 亨 まちセン評議員 立命館大学産業社会学部 教授	 22号 暮らしの中の高い精神性 衛藤 照夫 京都府建築士会 会長	 33号 激しい変革を包み込む古都を 母体とする安堵感 平井 常夫 修徳自治連合会 会長

 34号 新しい発見が尽きない京都 大島 祥子 スーク創生事務所 代表	 45号 住民自治の伝統を受け継ぎたい 大田垣 義夫 有隣自治連合会 会長	 57号 身近な住文化を受け継ぐ 中川 等 大阪産業大学 准教授
 35号 町家の伝統の継承 高橋 康夫 京都大学大学院 教授	 46号 幻の祇園囃子を聴きながら… 井上 成哉 明倫まちづくり委員会 委員長	 58号 なぜか京都 なぜか洛北 なぜか北山 されど… 阪本 卓也 京都北山街協同組合 理事長
 36号 『普通』の暮らしが描ける街 中川 理 京都工芸繊維大学 教授	 47号 私と京を繋ぐ町家 水野 歌夕 水野克比古フォトスペース 「町家写真館」 館長	 59号 京町家街を作っては 浅井 國勝 株式会社朝日堂 代表取締役会長
 37号 「かるい」建築 日向 進 京都工芸繊維大学 教授	 48号 観光資源として発信したい 京都の銭湯文化 林 宏樹 フリーライター	 60号 京都の京都ではなく、 日本の京都だ！ 桑原 尚史 京都市建築協定連絡協議会 会長 桂坂地区建築協定協議会 会長
 38号 もしも私が京都の人でなかったら 市田 ひろみ まちセン理事 服飾評論家	 49号 京町家から発信したい 京都の森を元気にする取組 松田 直子 まちセン評議員 株式会社Hibana 代表取締役	 61号 美しい景観は手入れを して守りましょう 中西 たえ子 まちセン評議員 株式会社鼓月 取締役会長
 39号 (無題) 横村 久子 京都女子大学 教授	 50号 未来の選択 太田 航平 NPO 地域環境デザイン研究所 ecotone 代表理事	 62号 イメージとしての京都 井上 えり子 京都女子大学 准教授
 40号 京都の景観とともに 門内 輝行 まちセン評議員 京都大学大学院工学研究科 教授	 51号 京都で建築を学ぶ、ということ 矢ヶ崎 善太郎 京都工芸繊維大学大学院 工芸科学研究科 准教授	 63号 奥の深い京のまち 小笠原 憲一 京都市都市計画局長
 41号 ジェーン・ジェイコブスと 「歩いて楽しいまち」 山崎 一樹 京都市副市長	 52号 まちを創る時代 市村 勝 京都商店連盟 副会長	 64号 京都のくらしと私にとっての景観 西嶋 淳 大阪商業大学経済学部 教授
 42号 美しく移ろう京都の景観 大谷 孝彦 武庫川女子大学 教授	 53号 いつの間にか、再び京都 村松 晃男 上賀茂神社(賀茂別雷神社) 権禰宣	 65号 安心・安全の町づくり 岡野 益巳 一般社団法人京都府建設業協会 会長 株式会社岡野組 代表取締役
 43号 品格のある京都を目指して 堀野 欣哉 キンシ正宗株式会社 代表取締役社長	 54号 間取りからまちへと 広がった住宅への興味 森重 幸子 京都大学大学院工学研究科 研究員	 66号 審議会を通して見てきた京都 青山 吉隆 京都大学名誉教授
 44号 (無題) 里見 晋 京都市都市計画局長	 56号 外側から見た京都 谷口 親平 姉小路界限を考える会 事務局長	 68号 伝統と革新～不易流行の理念で 早瀬 善男 まちセン評議員 京都商店連盟 名誉会長 株式会社ハヤセ衣裳店 代表取締役

 69号 百万遍交差点の50年 尾池 和夫 まちセン理事 京都造形芸術大学 学長	 73号 今を生きる京都の町衆 津田 大三 まちセン顧問 京都市会議長	 79号 はじめての町家の日 城 幸央 京町家情報センター 事務局長
 70号 変貌する『千年の都』 安本 典夫 まちセン理事 大阪学院大学 教授	 75号 価値の再発見・ 再創造が可能なまち、京都。 大島 祥子 スーク創生事務所	 81号 「丸竹夷」、効果はいつ？ 鈴木 章一郎 京都市 都市計画局長
 71号 京都に暮らして 玉山 秀文 まちセン監事 税理士法人 京都合同会計 税理士	 76号 祇園祭りの一日 稲垣 光彦 ワールド・モニュメント財団 日本代表	55号、67号、74号、78号、80号は「私と京都」非掲載。
 72号 四条通 藤田 治久 まちセン理事 株式会社京都新聞社 論説副委員長	 77号 京町家カルテ 大場 修 京都府立大学大学院生命環境科学 研究科環境科学専攻 教授	

